

ぬまっこ 号外

～ 笑顔 ～

令和6年7月3日

発行者

校長 三浦 了二

あいさつは魔法のことば(7月2日 朝会校長講話から)

ずいぶん前になりますが、校長先生のお父さんのお葬式の時、見知らぬ親子がお線香をあげに来てくれました。どう見ても校長先生のお父さんとは関係がある年格好ではありません。その親子はお線香をあげて、写真の前で涙ぐんでくれました。お線香をあげていただいたお礼に声をかけました。

「どのような 関係ででしょうか」と

母親が話してくれました。その親子は転勤で町に来たそうです。男の子は低学年だと思います。なかなか、町や学校に馴染めず、寂しい思いをしていたそうです。校長先生のお父さんは毎朝、地区の清掃をしていたので、その子が毎日学校に行くときには、「おはよう」と声をかけていたそうです。その子は、毎朝のように声をかけてくれるおじいちゃんが好きになったそうです。特別な会話があったわけではないようですが、挨拶で心と心が通い合ったのかなと思います。

挨拶とは、「心を開いて、相手に近づく」という意味が込められています。

皆さんが日頃言っている挨拶は実はひとつひとつ言葉が省略されているそうです。

朝の挨拶の「おはようございます」は「朝早くからご苦労様です。」の略で朝早くから働く人をねぎらったり、感謝したりした言葉だそうです。

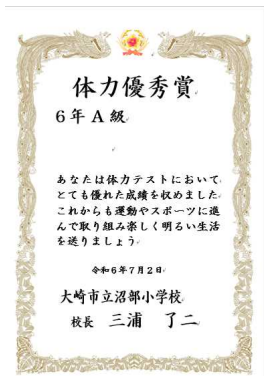
昼の「こんにちは」は「今日はごきげんいかがですか」の略で相手の体調や気分を気遣う言葉です。

挨拶の言葉は、何気なく使われている言葉ではありません。相手に対する思いやりを込めたメッセージになっています。だから、挨拶をすることで、するほうもされたほうも温かい気持ちになるのだと思います。また挨拶するだけで、「あの人はいい人だ」と評価されます。逆にどんなにやさしい気持ちを持っていても行動しなければ、「あいさつもできないなんて」となってしまう。

校長先生は毎朝、各教室に挨拶に行きます。元気よく挨拶してもらえると、うれしくなり、自然と笑顔になります。逆に挨拶しても返事がなかったりすると、とても悲しい気持ちになります。

挨拶は人の心を優しくする魔法の言葉です。みなさんも、挨拶の意味をしっかりと考えて、相手に対して気持ちを込めて挨拶しましょう。校内の先生や友だちだけでなく、学校に来られたお客様や夏休みには地域の方々にも元気よく挨拶し、みんなの元気や優しさを分けてあげてください。みんなの挨拶で、心が温かくなる魔法をかけてください。

今月は4年生と5年生が校外学習や野外活動に行きますね。行った先でも沼部小学校の代表として、気持ちをこめた温かい挨拶をしてきてください。



体力・運動能力調査(体力優秀賞・レベルアップ賞)表彰

朝会時に、今年の体力運動能力調査の結果、A評価の児童に体力優秀賞を、昨年度よりも総合評価で、レベルアップした児童にレベルアップ賞をおくりました。今年の優秀賞は9人、レベルアップ賞は31人いました。表彰された児童だけでなく、全校のみんなが、目標をもって、体力調査に臨みました。

これからも、進んで運動に取り組み、丈夫な体をつくってほしいと思います。